

「でも、俺は、あつし将嗣が………あつし主将じゃなくして、

「将嗣のことが、ほんとに好きだったんだ」







あしたは
こられない

大阪に
出張がある

ふうん

なぜだろう……

寂しいと
感じるのは



食事だけ置いていく



……逃げるな



わかった

……さあさあ



この部屋から出るときには
すべてが終わる予感がした

そいつその日
もうじきだ

——人間関係ってのは
セックスだけじゃねえだろ

相手を信頼したり
尊敬したり、安心できたり

そう言うのが俺は
欲しいんだよ！

だだを捏ねたと
決めつけられたが
あれは俺の本心だった

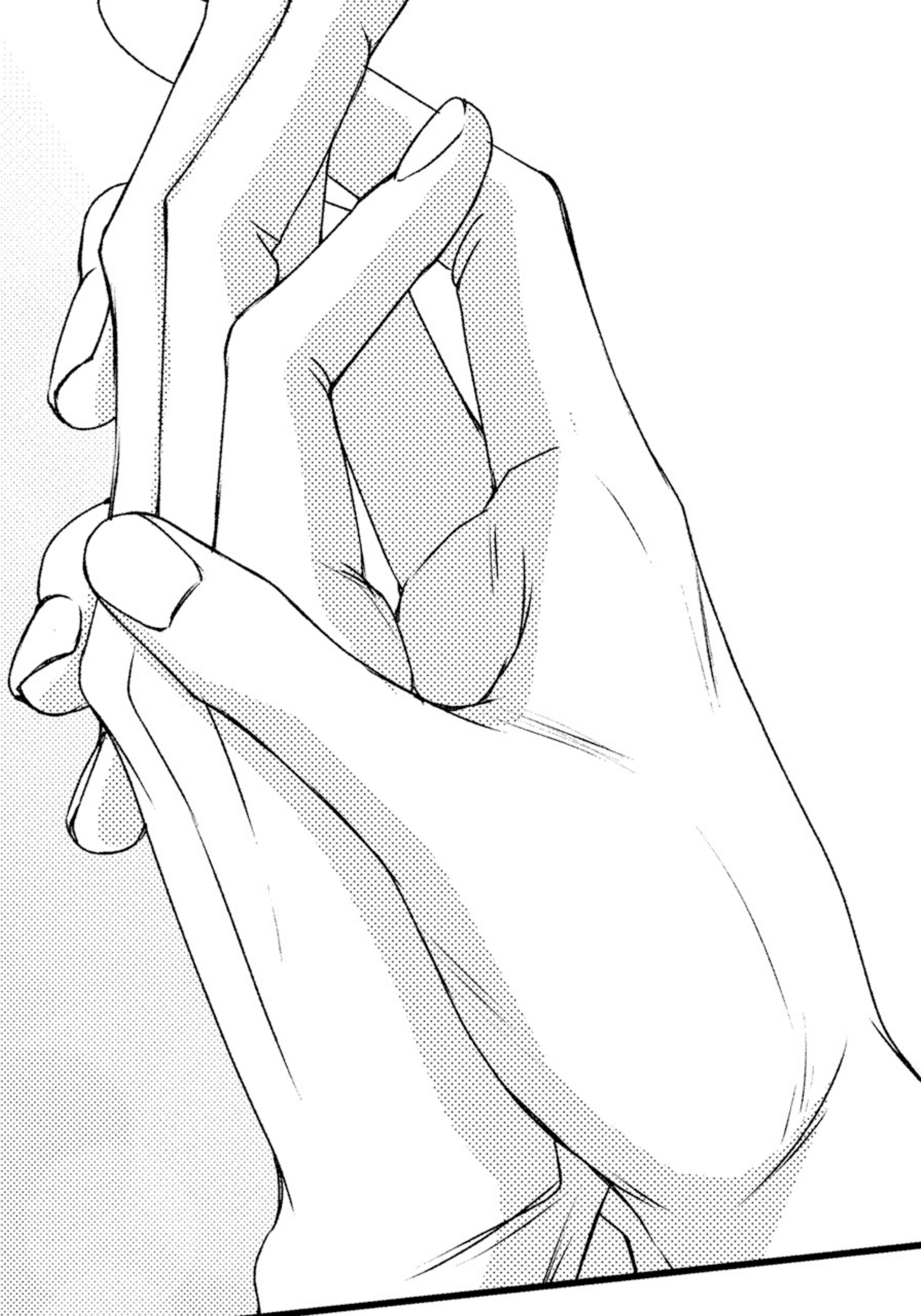
信頼が、尊敬が、
安心が欲しかった

でも、本当は、全部——

千晶？
ちあき



将嗣からもらえたら
どれだけいいだろうと
渴望し続けたすべてだった



そして、もはや
存在しないものと
あきらめてしまった
すべてだった



寒い……





泣いたせいかな……？

ホッ……

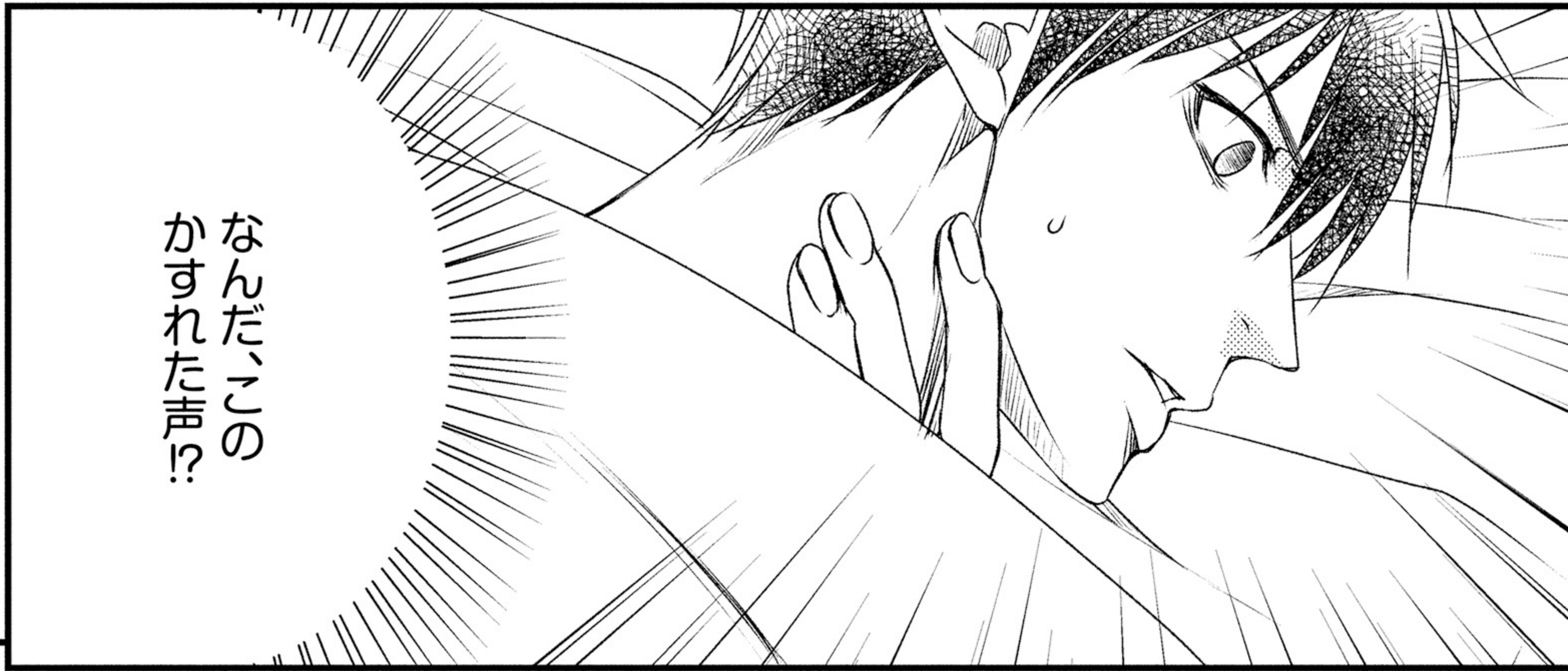


むしろ
やさしかった……

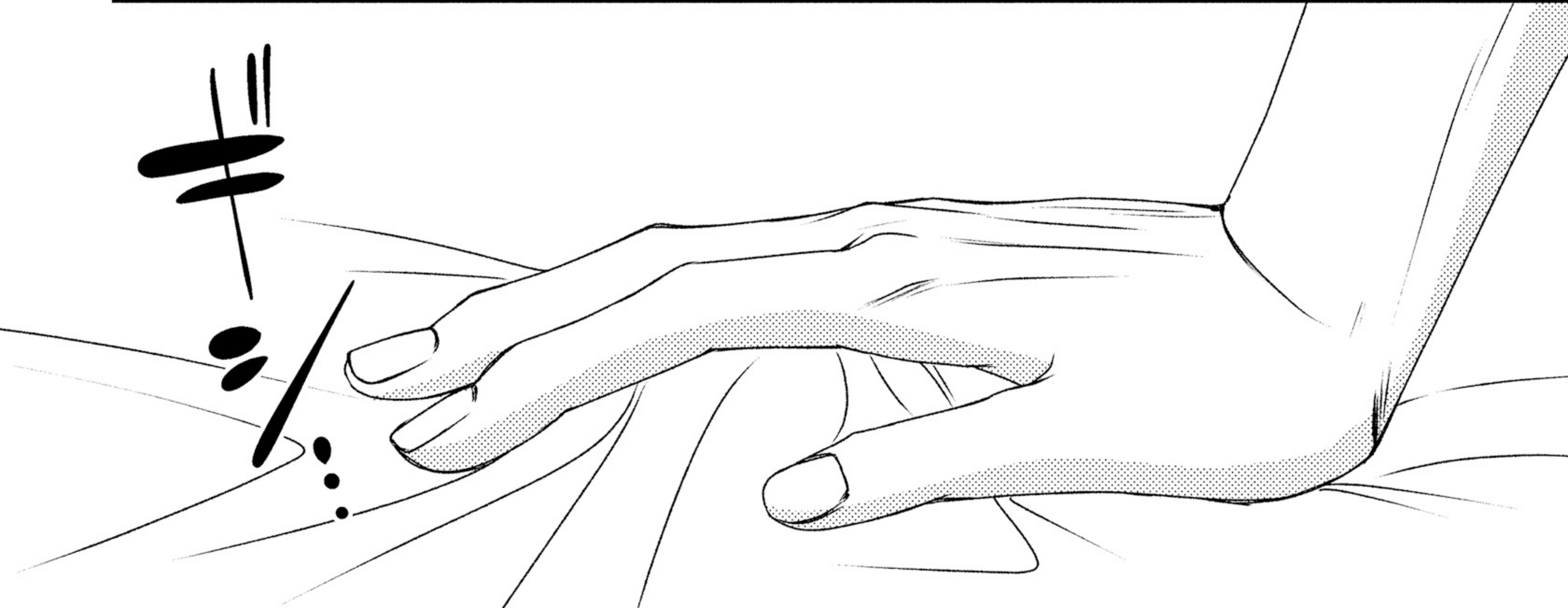


なんだこれ……
身体中の関節が
軋む

昨日はそんなに
激しくしてないのに



なんだ、この
かすれた声!?





.....おはさー

フヤ

フヤ

フヤ

おはさ

フヤ

.....



暖房.....

ほんとに
風邪ひいたのか

.....

何日も裸で放置されて
セックスまみれの生活を
送っていたら
当然かもしれない



ERROR

え……

故障して……？

